

Jconsole で解決する CVP メモリ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[Jconsole ユーティリティ](#)

概要

この資料に Java コンソール (jconsole) ツールを Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) メモリリーク問題を解決するのに使用する方法を記述されています。

前提条件

要件

以下についての知識をお持ちの上でこの文書をお読みになることを推奨します。

- Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP)
- Java コンソール ユーティリティ

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は CVP バージョン 9.0(X) および それ 以上に基づいています。

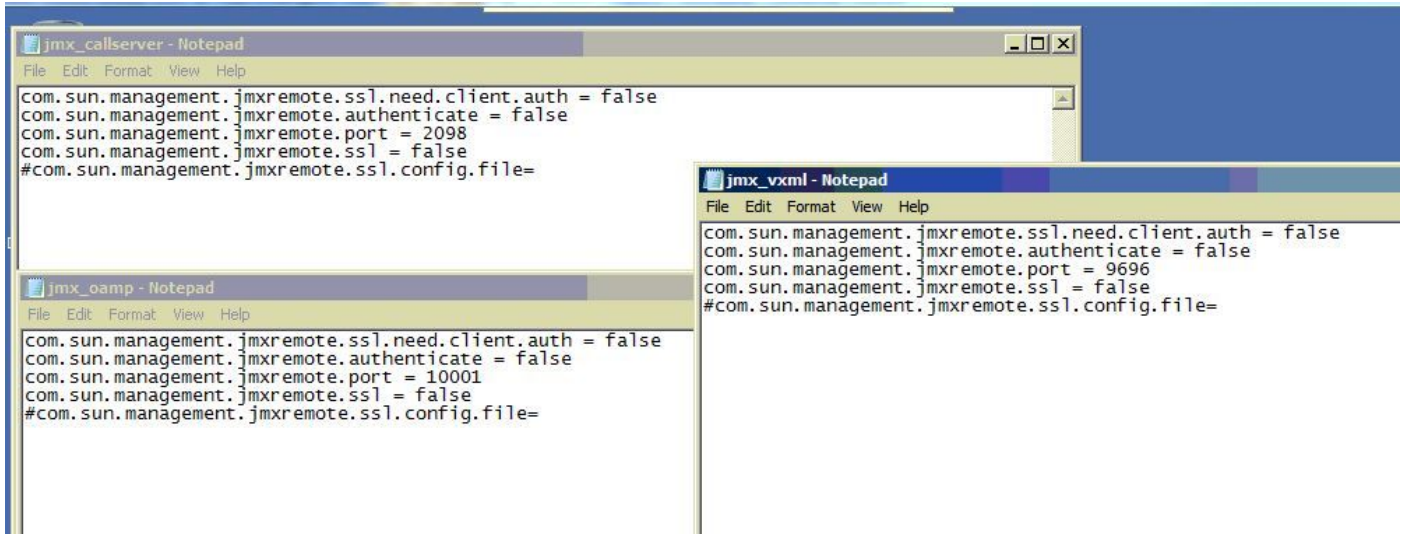
このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

Jconsole ユーティリティ

コール サーバを解決するために、VXML サーバーのメモリ リークがパフォーマンスに関連する問題頻繁にそれは jconsole ユーティリティのターンアップ Java ヒープ ダンプする トレースに必要です。これは通常イベント ビューア、タスク マネージャ、および/または perfmon ログ ツールでサーバの特定のサービスへのリソースの問題を狭めた後されます。ユーティリティはヒープをで、低レベルトレースファイル CVP の上に出て来られるために推奨されます解決しますトレースレベルをダンプします。

Jconsole はコール サーバ、VXML および OAMP サーバのパス「C:\Cisco\CVP\jre\bin」にデフォルトでおよびそれぞれこれらのサーバの最初に jmx_callserver.conf のポート の 詳細を設定する必要があるコンソール jmx_vxml.conf および jmx_oamp.conf コンフィギュレーション ファイルにログインするためにあります

- コール サーバ JMX ポート 2098
- VXML サーバ JMX ポート 9696
- OAMP サーバ JMX ポート 10001



```
com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false
com.sun.management.jmxremote.authenticate = false
com.sun.management.jmxremote.port = 2098
com.sun.management.jmxremote.ssl = false
#com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file=

com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false
com.sun.management.jmxremote.authenticate = false
com.sun.management.jmxremote.port = 10001
com.sun.management.jmxremote.ssl = false
#com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file=

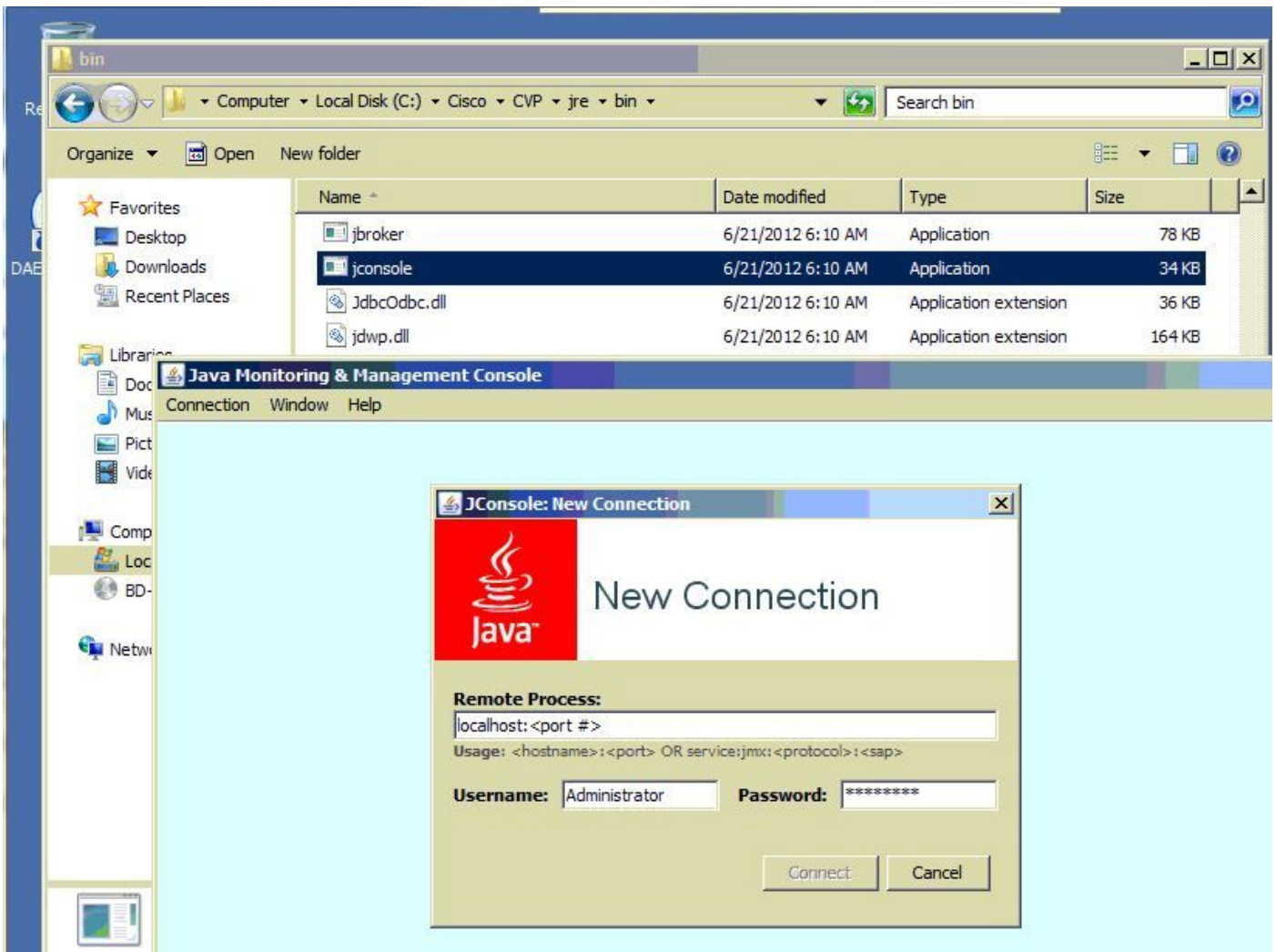
com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false
com.sun.management.jmxremote.authenticate = false
com.sun.management.jmxremote.port = 9696
com.sun.management.jmxremote.ssl = false
#com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file=
```

コンフィギュレーション ファイルが更新済だった後、これらのステップで説明されているようにユーティリティ jconsole を実行して下さい

ステップ 1 %CVP_HOME%/CVP/jre/bin/jconsole.ex3 を開いて下さい。

ステップ 2 localhost に接続し、Callserver、VXML または OAMP サーバ JMX ポートに相当してポート番号を規定して下さい。

ステップ 3 CVP oamp ログオン資格情報が Admin 資格情報とログインして下さい。



ステップ 4 MBeans タブを開いて下さい。

ステップ 5 開いて下さい com.sun.management - HotSpotDiagnostics -オペレーション-
dumpheap。

ステップ 6 p0 でダンプするを指示したいと思うパスおよびファイル名を入力して下さい。本当
のように p1 を残して下さい。 dumpHeap ボタンをクリックし、生成されるファイルを集めて下さ
い。

- +
 - +
 - +
 - +
 - +
 -
 -
 - +
 -
 - +
 - +
- Catalina
 JImplementation
 Users
 com.sun.management
 HotSpotDiagnostic
 Attributes
 Operations
 dumpHeap
 getVMOption
 setVMOption
 java.lang
 java.util.logging

Operation invocation

```
void dumpHeap ( p0 String , p1 true )
```

MBeanOperationInfo

Name	Value
Operation:	
Name	dumpHeap
Description	dumpHeap
Impact	UNKNOWN
ReturnType	void
Parameter-0:	
Name	p0
Description	p0
Type	java.lang.String
Parameter-1:	
Name	p1
Description	p1
Type	boolean

Descriptor

Name	Value
Operation:	
openType	javax.management.openmbean.SimpleType(name=java.lang.Void)
originalType	void
Parameter-0:	
openType	javax.management.openmbean.SimpleType(name=java.lang.String)
originalType	java.lang.String
Parameter-1:	
openType	javax.management.openmbean.SimpleType(name=java.lang.Boolean)
originalType	boolean